

# 食品衛生自主管理認証制度導入のためのIT支援システムの開発

指導教員 北村 豊

江夏 瑛理子 (200510853)

## 1. 背景と目的

食品の安全性と信頼性の確保が強く求められている中、HACCP やトレーサビリティシステムに加えて「食品衛生自主管理認証制度」の導入が、近年積極的に進められている。これは食品事業者による衛生管理マニュアルの作成とその実践が地方自治体により審査、認証される制度である。しかし現状では食品事業者の多くは、これまで経験的に行ってきた作業をマニュアル化するノウハウに乏しいため、申請に至らず認証取得施設数が伸び悩んでいる。

本研究では、衛生管理マニュアルの作成をインターネット利用下で容易にするIT支援システムを開発し、認証制度の普及・拡大に寄与することで安全かつ信頼性の高い食品の提供に資することを目的とする。

## 2. 方法

(1) マニュアル作成支援システム (以下システム) の構築

ここでは、食品事業者数が多く、かつ大消費地である東京都の食品衛生自主管理認証制度の共通基準に従い、日常の衛生管理に必要な作業や決まりを抽出した。それらの管理内容、実施頻度、記録方法などをWEB上での質問フォーム形式にしたノートを作成した後、それを基にHTMLおよびCGIを用いてシステムを構築した。このシステムでは、共通基準の各項目について事業者がインターネット上で質問内容に回答することでマニュアルの雛形が生成される。なお説明が必要と考えられる箇所にはヒントや例示、参考資料を閲覧できるようにした。

(2) システムの評価

構築したシステムの試用を指定審査事業者に依頼し、同時にアンケート調査(A3用紙1枚、計18項目)を行った。回答は「大変そう思う」「まあまあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の4段階評価とした。回答者の属性として性別、年齢、審査経験の有無をたずねた。ここで指定審査事業者とは、食品事業者の衛生管理マニュアルおよびその実践を審査する、東京都が指定した第三者機関であり、現在22団体がある。

## 3. 結果と考察

アンケートは110部を配布し、有効回答者数は68だった。「Q13:このシステムを食品事業者に勧めてみたい」という質問に対して「大変そう思う」と「ややそう思う」の回答を合わせると77%となり、

システムに対して概ね肯定的な評価を得られたと考えられる(図)。またそれぞれの質問の回答について平均点(10点満点)を算出した(表)。平均点が高かったQ2,4は全体の構成の分かりやすさ、入力に対する反応に関する質問である。逆に平均点の低かったQ8,9は現場への適応性と操作の分かりやすさに関する質問である。また、自由記述において「作成したマニュアルのExcel・Word化」「システム利用時のID・パスワードの発行」「メールアドレスの登録によるアップデート情報の受信」などの要望もあった。

これらの結果より、ここで作成したシステムは「入力した内容を正しく表示し、認証基準を満たすマニュアルを出力する」という基礎的な機能を果たし、マニュアル作成の一助になっていると考えられる。一方、今後の課題として使いやすさや実際の現場への適用性の向上が必要と考えられる。

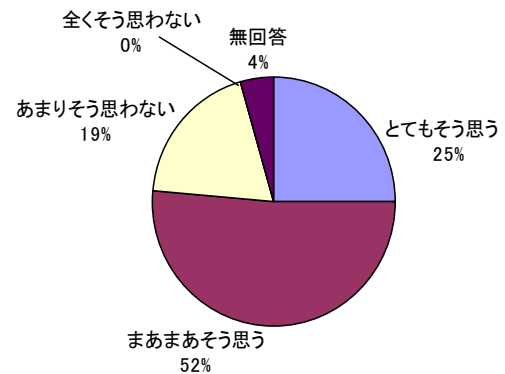


図 Q13:このシステムを食品事業者に勧めてみたい(n=68)

表 アンケートの質問内容と平均点

Q	質問内容	平均点
1	アンケート回答のために使った項目(全部か一部の2択)	-
2	各画面は分かりやすいタイトル,見出し,記述がされていた	8.2
3	選択肢の数は適当だった	4.3
4	入力した内容は正しく表示された	8.1
5	画面の字は見やすく読みやすかった	8.0
6	入力枠の大きさは適当だった	4.0
7	出力されたマニュアルは内容的に認証基準(共通基準)を十分満たす	7.2
8	質問内容は現場(食品事業者)の実情にマッチしている	6.7
9	トップページの「システムの使い方」は理解しやすく記述されていた	6.7
10	システムを使ってみて親しみやすいと感じた	7.1
11	記入例やヒントは役に立った	7.5
12	このシステムはマニュアル作りを楽にしてくれると感じた	7.5
13	このシステムを食品事業者に勧めてみたい	7.1

Q3と6は選択肢の数・入力枠の大きさを尋ねており、5.0点に近いほど高い評価とする